

今日へと旅する

Journey to today

私はこれまで、連続する過去からの繋がりが、自らが内包するナショナリズムを薄すぽんやりと自覚しているようで、でも具体的な実感もないまま、ふわふわとした感覚を抱えて生きてきました。

私という存在や置かれた環境が過去の歴史や出来事とどう繋がっているのか、それらを具体的に想像し実感するために、私は様々な場所へリサーチの旅へと出かけました。歴史家でも学者でもない私の旅は、正確性も欠けていて、史実のみを追い求めたものではありません。私が見つけた事実と誰かにとっての事実が違っていることもあるでしょう。思い込みも多い恣意的な旅では、完璧な結論に辿り着くことも有りません。それでも、自分自身の腑に落ちる何かを探して手探りで過去を尋ねる旅路は、巡り巡って今日の自分のいる場所へと繋がっていきます。

今日の私が立っている場所の輪郭が今までよりも確かなものになるように、私は近くて遠い過去をなぞりながら、今日に向かって旅を重ねていくのです。

宮原野乃実

miyahara nonomi

1992 東京都生まれ

2015 京都造形芸術大学 美術工芸学科 総合造形コース 卒業

2023 CERAMIX (西武渋谷店美術画廊 / 東京)

Kyoto Art for Tomorrow 2023—京都府新鋭選抜展— (京都文化博物館 / 京都)

2022 [個展] 海辺の輪郭 (3331 CUBE shop&gallery / 東京)

KAICA TOKYO AWARD 2022 (KAICA 東京 by THE SHARE HOTELS / 東京)

2021 Collectors' Collective vol.4 Osaka (テツカヤマギャラリー / 大阪)

2020 [個展] 透けるレイヤー 結んだ景色 (広島芸術センター / 広島)

2019 [個展] YESTERDAY'S GHOST (谷居 GuJu / 台北)

[個展] YESTERDAY'S GHOST (CLEAR GALLERY TOKYO Viewing Room / 東京)

群馬青年ビエンナーレ (群馬県立近代美術館 / 群馬)

2017 [個展] ここは昨日の塵の上 | 今日は建構在昨日之上 (居藝廊 G.Gallery / 台北)

[個展] どうかで誰かが見た景色 (GALLERY ART POINT bis. / 東京)

シブヤスタイルvol.11 (西武渋谷店 美術画廊 / 東京)

“FOCUS” UNKNOWN ASIA GROUP SHOW (DMO ARTS / 大阪)

2016 TDW art fair 2016 (神宮外苑 / 東京)

同じ窯の位相 (ARTZONE / 京都)

UNKNOWN ASIA ART EXCHANGE OSAKA 2016 (ハービスホール / 大阪)

SICF17 (スパイラルホール / 東京)

2014 [個展] かわるかもしれない (ギャラリーマロニエ / 京都)

1mm (ギャラリーマロニエ / 京都)

2013 京都同時代学生陶芸展 (元立誠小学校 / 京都)

【アートフェア】

2021 3331 ART FAIR 2021 (3331 Arts Chiyoda / 東京)

2019 ARTISTS' FAIR KYOTO (京都文化博物館 別館 / 京都)

2017 ART OSAKA (ホテルグランヴィア大阪 26階 / 大阪)

ART in PARK HOTEL TOKYO 2017 (PARK HOTEL TOKYO / 東京)

2016 art fair sapporo 2016 (CROSS HOTEL SAPPORO / 札幌)

今日へと旅する

Journey to today

宮原野乃実

miyahara nonomi

2023年8月5日[土] ～ 8月27日[日]

13時 ～ 19時 / 水・木休廊

G a l l e r y P A R C
GRAND MARBLE

宮原野乃実(みやはら・ののみ / 東京・1992～)は、ある地域の川原に大量に捨てられていた陶製手榴弾(第二次世界大戦末期まで日本で作られていた)の上に、周辺の住宅街の街並みをジオラマとして組み合わせた《ざくる》、海岸に流れ着き滞留する陶片や人工物と、積み上げられていく海上輸送コンテナの風景を重ね合わせた《DRIFT》、海岸沿いに残る戦争遺構のコンクリート片に、投棄・漂着した現代の生活ゴミをミニチュアで再現した《誰かの基地》など、時間や歴史(来歴)を物語る存在としての陶磁器と、現在(現代)の日用品などを組み合わせた作品を制作・発表しています。

『**私という存在や私が置かれた現在が、過去の歴史や出来事とどう繋がっているのか、実感を持たずにいることがあります。「私」や「現在」が、過去や歴史、あるいは「日本」といった共同体からも切り離されて突然存在しているような感覚です**』と語る宮原にとって、これらの作品(行為)は、過去の出来事や歴史を自分なりに(追)体験してみると、これによって「現在の私」との関係を見出そうとするものといえます。とりわけ宮原は「第二次世界大戦」という歴史的史実と自分自身との距離感をより具体的に扱うため、これまで各所でのリサーチやフィールドワークにも取り組んできました。陶片や鯨の歯などの拾遺物、ジオラマ、オーガンジーなどによる《幽霊のいる島》は、小笠原諸島へのリサーチをきっかけに抱いた「**歴史や情報を通して見る景色はどう見えるのか**」について思考した作品。映像作品《砂糖王国旅行記》は、1920年代に「シュガーアイランド」と呼ばれ、現在では全く似ていない南大東島とサイパン島を「生き別れの双子のような島」と捉え、その視点に基づいて「**過去の歴史を参照しながら恣意的な眼差しで物語を編むことはできるのか**」について取り組んだものです。宮原にとってはどちらも実体験をとまなわない過去でありながら、それらを知識や情報として扱うのではなく、自らの手(想像や考察)によって触れてみることで、過去と現在を等しく扱おうとしているように見えます。

宮原の作品はどこか「呼び継ぎ(割れたり欠けたりした器の足りない部分を異なる陶片で埋める陶磁器の技法)」に似ていると言えるかもしれません。呼び継ぎには、欠けた器を埋めるための陶片のカタチや径、厚みや色、土の種類などを合わせることで欠損を補完するようなものもあれば、異なる素材、形、来歴のものを半ば強引にひとつに組み合わせ、その「違と和」によって互いの存在を強く感じさせるものもあります。宮原は歴史という器の欠落を埋めるのではなく、歴史と私、過去と現在を組みあわせることで、それぞれの違いを明確に意識することで目の前の景色を確認するとともに、そこに新たな見立てや見所を発見しようとするかのようです。

『**現在に私が立っている場所の輪郭が今までよりも確かなものになるように、近くて遠い過去をなぞりながら、今日に向かって旅を重ねていく**』と語る宮原にとって、本展「今日へと旅する : Journey to today」は、《ざくる》や《DRIFT》などの陶磁器作品から、映像作品《砂糖王国旅行記》までの取り組みを一堂に展示し、これまでの軌跡とともに、現在までの自分の姿勢や位置を確認する機会であるとともに、陶を技法・素材としながらも、特異な活動が続ける宮原の眼差しを知っていただけるのではないのでしょうか。

本展作家である宮原野乃実さんは、2020年のGallery PARC主催の公募展「Gallery PARC Art Competition 2020」においてプランを採択し、2020年7月に発表を予定していたアーティストでしたが、Gallery PARCがその開催の前に活動を中断したことで発表が延期となっていました。本展はその内容において当時の採択プランの忠実な再現ではありませんが、延期させていただいた宮原さんの発表の機会として実施いたします。公募展として募集・採択したにもかかわらず、発表延期・活動中断の申し出を受け入れていただいたこと、そしてその展示を3年越しに再開できたことについて宮原野乃実さん並びに公募にご尽力いただいた各位に感謝いたします。

私はこれまで、過去の出来事や体験できなかった近現代の歴史を自分なりに追体験して捉えようと試みながら、同時に自分の立ち位置や現在との関係性を見つけようとしてきました。私という存在や置かれた環境が、過去の歴史や出来事とどう繋がっているのか、実感を持てずにいることがことがあります。「私」や「現在の環境」が、過去や歴史と切り離されて突然存在しているような感覚です。しかしテレビや映画や歴史の教科書で過去の出来事について語られるとき、それらは「日本」という共同体に所属する全員が持つ共通の記憶（または経験）として語られます。

第二次世界大戦末期に日本で作られその後軍事工場の近くの河原に大量に捨てられていた陶製手榴弾の上に、周辺の住宅街の街並みをジオラマとして組み合わせた《さくら》では、個人的にはこれまで意識を向けて来なかった戦争の遺物と日常との距離、また日本の近現代史を語る上で重要で忘れてはいけない悲しい歴史と言われていたものも、現在を生きる人間にとっては状況に応じて無かったことのようにも扱ってしまうことに興味を持ち制作しました。

その後、戦争と自身との距離感をより具体的に扱うために小笠原諸島を題材にした作品制作を試みます。

戦後、米軍の統治下となり1968年に返還されて以降も疎開前に定住していた日本人住民の多数は島へはも戻らなかったという小笠原諸島では、その時々で人々が入れ替わり、現在島で戦争の爪痕と隣合わせで暮らす人々も、多くはその当時の現地での戦争経験がありません。移住した先で偶然隣合わせになっただけの他所者である新世代の島民たちの置かれた状況は、私自身が抱く感覚と重なるのではないかと考え、制作の為のリサーチを行なったものの、見えてきたのは戦前から住み続ける米系日本人の存在など、その島特有の複雑な歴史を抱える当事者たちの姿でした。

そこで私の制作は、「歴史や情報を通して見る景色はどう見えるのか」という問いに変わり、現地で拾い集めた素材とリサーチを元に組み立てたジオラマ模型に、小笠原の歴史に纏わる記事や紙資料を写経のように書き写したオーガンジーを被せた《幽霊のいる島》を発表します。

小笠原での制作には、「歴史や事実をできるだけ正確に扱いたい」という考えがありました。「実際の歴史」を重要視する反面、「必ず正確に歴史を語らなければならないのか」「当時の経験が無い人間が物語を語ることはできないのか」という疑問も生じました。

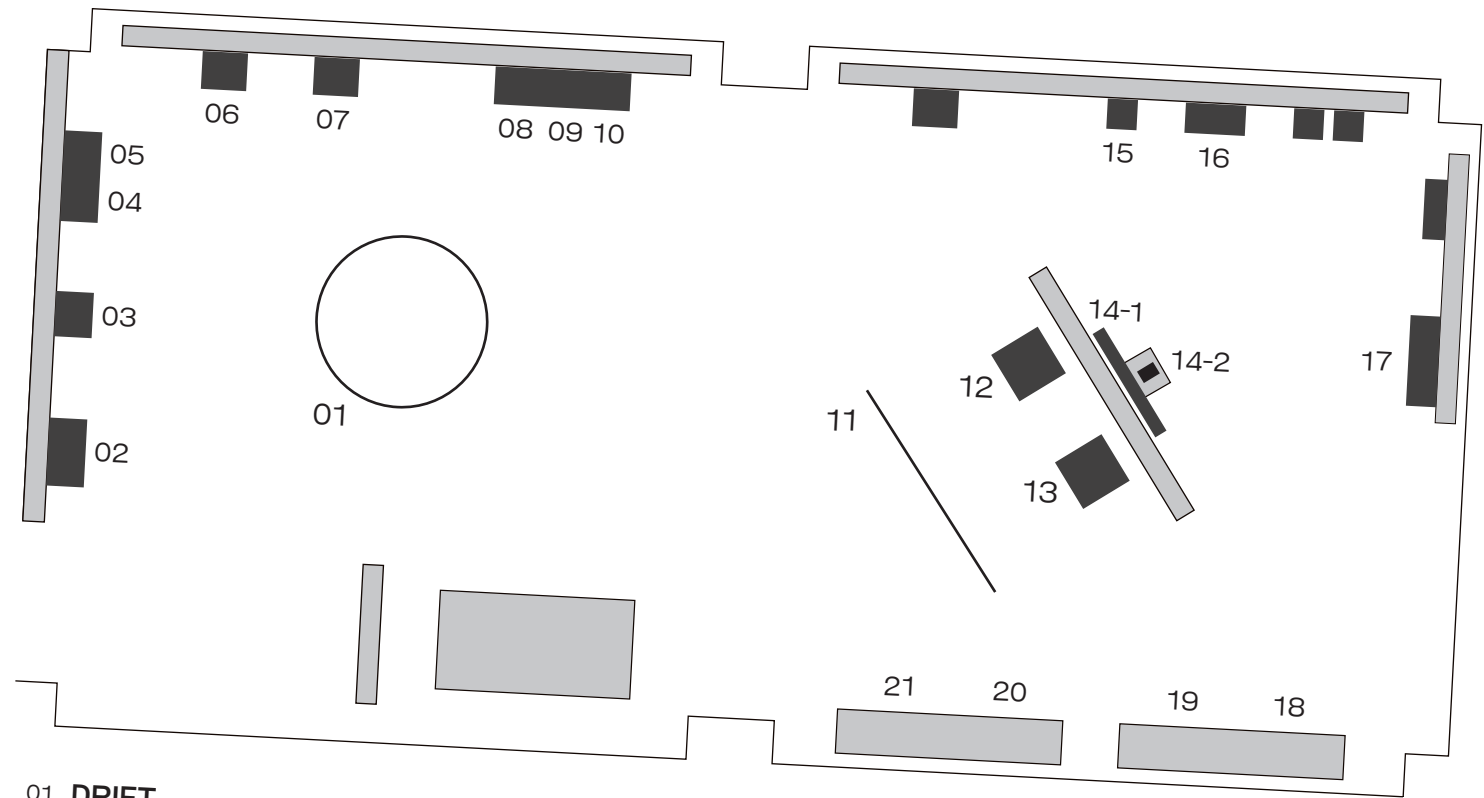
《砂糖王国旅行記》では、「過去の歴史を参照しながら恣意的な眼差しで物語を編むことはできるのか」について考えます。今から約100年前の1920年代に「シュガーアイランド」と呼ばれていた南大東島とサイパン島では、かつては島の面積の9割以上にサトウキビ畑を耕し、収穫したサトウキビを運ぶ鉄道が走り、島を統治していた「シュガーキング」と呼ばれた日本人男性実業家の銅像が建てられた。私は共通点を見つける程に「生き別れの双子のような島」だと思い込んでいく。当時の日本の植民地政策や近代化への歩みを想像してなぞり歩き、今では全く似ていない2つの島の風景を結びつける。物語を成立させるためにリサーチを重ねて、こじつける度に小さなズレが広がって辻褄が合わなくなっていく。史実と私自身の島での体験が織り交さり、大文字の歴史では語れない、独自の物語として着地していきます。

《DRIFT》や《誰かの基地》といったシリーズでは、波打ち際の日々変わりゆく風景から、越境や移動、交流や外部からの影響について考えます。《DRIFT》では、海岸に流れ着いた陶片などの人工物と、湾岸地域にやってきては積み上げられていく海上輸送コンテナの風景を重ね合わせ、《誰かの基地》では、海岸沿いに残された戦争遺構のコンクリート片に、その場所に投棄されたり漂着した現代の生活ゴミをミニチュアで再現しています。

島国である日本にとって、海は外界を隔てる境界でもあり、水平線の彼方の遠い対岸からの影響を伝える媒体でもあります。現在と過去、こちらとあちら、様々な記憶を含んだ波によって侵食と堆積を繰り返す海岸線を歩き、拾い集めた断片を繋ぎ合わせ、自身が立っている大地の輪郭を確かめようと試みます。

私は作品制作とリサーチを通して、見聞きした出来事や景色を結びつけ、過去や土地に対してどうアプローチすることができるのかを模索しています。

宮原野乃実



- 01 **DRIFT**
2023
陶片 漂着物 ジオラマ模型 セメント ポリスチレン 新うるし 真鍮粉
- 02 **さくら #79**
2023
陶製手榴弾 ジオラマ模型 新うるし 真鍮粉
- 03 **さくら #76**
2022
陶製手榴弾 ジオラマ模型 新うるし 真鍮粉
- 04 **さくら #48**
2017
陶製手榴弾 ジオラマ模型 新うるし 真鍮粉
- 05 **さくら #77**
2023
陶製手榴弾 ジオラマ模型 新うるし 真鍮粉
- 06 **辿る陸 #3**
2016
陶製罫子 ジオラマ模型 新うるし、真鍮粉
- 07 **辿る陸#2**
2016
陶製罫子 ジオラマ模型 新うるし 真鍮粉
- 08 **誰かの基地 #8**
2017
戦績の瓦礫 ミニチュア 新うるし 真鍮粉
- 09 **誰かの基地 #9**
2017
戦績の瓦礫 ミニチュア 新うるし 真鍮粉
- 10 **誰かの基地 #7**
2017
戦績の瓦礫 ミニチュア 新うるし 真鍮粉
- 11 **ogasawara paper**
2018
オーガンジー 1400×2000 mm

- 12 **幽霊のいる島(小笠原) #2**
2018
珊瑚 鯨の歯 陶片 ジオラマ模型 セメント 新うるし 真鍮粉 オーガンジー
- 13 **幽霊のいる島(小笠原) #4**
2018
珊瑚 鯨の歯 陶片 ジオラマ模型 セメント 新うるし 真鍮粉 オーガンジー
- 14-1 **砂糖王国旅行記**
2020
(映像) 13分 ※vimeo [https://vimeo.com/460921883] で無料公開
- 14-2 **砂糖王国旅行記 (ZINE)**
2020
冊子 A6 40頁 ※1,980円(税込)で販売中
- 15 **サトウキビ畑**
2021
陶
- 16 **結びつけた2つの島**
2020
サトウキビの糸 島の石 島の貝殻

- 17 **Sugar kings**
2020
サトウキビの糸、陶器
- 18 **DRIFT #30**
2023
陶片 漂着物 ジオラマ模型、セメント ポリスチレン 新うるし 真鍮粉
- 19 **DRIFT #31**
2023
陶片 漂着物 ジオラマ模型、セメント ポリスチレン 新うるし 真鍮粉
- 20 **DRIFT mini #1**
2023
陶片 漂着物 ジオラマ模型、セメント ポリスチレン、新うるし 真鍮粉
- 21 **DRIFT mini #2**
2023
陶片 漂着物 ジオラマ模型、セメント ポリスチレン、新うるし 真鍮粉